

平成27年度 東京大学2次試験前期日程(数学問題)150分  
理科(一類, 二類, 三類) 数I・II・III・A・B

- 1 正の実数  $a$  に対して, 座標平面上で次の放物線を考える.

$$C: y = ax^2 + \frac{1 - 4a^2}{4a}$$

$a$  が正の実数全体を動くとき,  $C$  の通過する領域を図示せよ.

- 2 どの目も出る確率が  $\frac{1}{6}$  のさいころを1つ用意し, 次のように左から順に文字を書く. さいころを投げ, 出た目が1, 2, 3のときは文字列AAを書き, 4のときは文字Bを, 5のときは文字Cを, 6のときは文字Dを書く. さらに繰り返しさいころを投げ, 同じ規則に従って, AA, B, C, Dをすでにある文字列の右側につなげて書いていく. たとえば, さいころを5回投げ, その出た目が順に2, 5, 6, 3, 4であったとすると, 得られる文字列は

AACDAAB

となる. このとき, 左から4番目の文字はD, 5番目の文字はAである.

- (1)  $n$  を正の整数とする.  $n$  回さいころを投げ, 文字列を作るとき, 文字列の左から  $n$  番目の文字がAとなる確率を求めよ.
- (2)  $n$  を2以上の整数とする.  $n$  回さいころを投げ, 文字列を作るとき, 文字列の左から  $n - 1$  番目の文字がAで, かつ  $n$  番目の文字がBとなる確率を求めよ.
- 3  $a$  を正の実数とし,  $p$  を正の有理数とする.

座標平面上の2つの曲線  $y = ax^p$  ( $x > 0$ ) と  $y = \log x$  ( $x > 0$ ) を考える. この2つの曲線の共有点が1点のみであるとし, その共有点をQとする. 以下の問いに答えよ. 必要であれば,  $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^p}{\log x} = \infty$  を証明なしに用いてよい.

- (1)  $a$  および点Qの  $x$  座標を  $p$  を用いて表せ.
- (2) この2つの曲線と  $x$  軸で囲まれる図形を,  $x$  軸のまわりに1回転してできる立体の体積を  $p$  を用いて表せ.
- (3) (2) で得られる立体の体積が  $2\pi$  になるときの  $p$  の値を求めよ.

4 数列  $\{p_n\}$  を次のように定める.

$$p_1 = 1, \quad p_2 = 2, \quad p_{n+2} = \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (1)  $\frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n}$  が  $n$  によらないことを示せ.  
 (2) すべての  $n = 2, 3, 4, \dots$  に対し,  $p_{n+1} + p_{n-1}$  を  $p_n$  のみを使って表せ.  
 (3) 数列  $\{q_n\}$  を次のように定める.

$$q_1 = 1, \quad q_2 = 1, \quad q_{n+2} = q_{n+1} + q_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

すべての  $n = 1, 2, 3, \dots$  に対し,  $p_n = q_{2n-1}$  を示せ.

5  $m$  を 2015 以下の正の整数とする.  ${}_{2015}C_m$  が偶数となる最小の  $m$  を求めよ.

6  $n$  を正の整数とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 関数  $g(x)$  を次のように定める.

$$g(x) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi x) + 1}{2} & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$f(x)$  を連続な関数とし,  $p, q$  を実数とする.  $|x| \leq \frac{1}{n}$  をみたす  $x$  に対して  $p \leq f(x) \leq q$  が成り立つとき, 次の不等式を示せ.

$$p \leq n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx \leq q$$

- (2) 関数  $h(x)$  を次のように定める.

$$h(x) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi x) & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

このとき, 次の極限を求めよ.

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx$$

解答例

1  $C : y = ax^2 + \frac{1-4a^2}{4a}$  を  $a$  について整理すると  $4(x^2-1)a^2 - 4ya + 1 = 0$

$f(a) = 4(x^2-1)a^2 - 4ya + 1$  とおくと

$$f(a) = \begin{cases} 4(x^2-1) \left\{ a - \frac{y}{2(x^2-1)} \right\}^2 + \frac{x^2-y^2-1}{x^2-1} & (x^2 \neq 1) \\ -4ya + 1 & (x^2 = 1) \end{cases}$$

$f(a) = 0$  が正の解  $a$  を持つためには、 $f(0) = 1$  に注意して

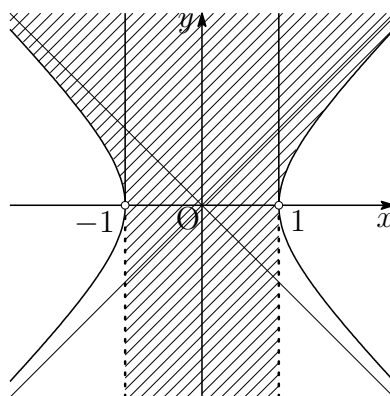
(i)  $x^2 - 1 < 0$  ゆえに  $|x| < 1$

(ii)  $x^2 - 1 > 0$ ,  $\frac{y}{2(x^2-1)} > 0$ ,  $\frac{x^2-y^2-1}{x^2-1} \leq 0$

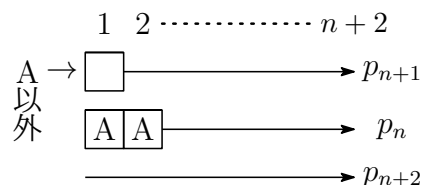
ゆえに  $y > 0$ ,  $x^2 - y^2 - 1 \leq 0$  ( $|x| > 1$ )

(iii)  $x^2 - 1 = 0$ ,  $-4y < 0$  ゆえに  $y > 0$  ( $|x| = 1$ )

求める領域は、下の図の斜線部分。ただし、点線部の境界は含まない。



- 2 (1) 文字列の左から  $n$  番目の文字が A となる確率を  $p_n$  とすると,  $p_{n+2}$  は最初に出た目が 4, 5, 6 の場合と 1, 2, 3 の場合により



$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n \quad (n \geq 1) \quad \cdots (*)$$

このとき  $p_1 = \frac{1}{2}, p_2 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{3}{4}$

(\*) より  $p_{n+2} - p_{n+1} = -\frac{1}{2}(p_{n+1} - p_n),$

$$p_{n+2} + \frac{1}{2}p_{n+1} = p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n$$

第 1 式から  $p_{n+1} - p_n = (p_2 - p_1) \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} = \left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1}$

第 2 式から  $p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n = p_2 + \frac{1}{2}p_1 = 1$

上の 2 式から  $p_n = \frac{2}{3} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1} \right\} \quad (n \geq 1)$

- (2) 文字列の左から  $n-1$  番目の文字が A で, かつ  $n$  番目の文字列が B となる確率を  $q_n$  とすると,  $q_{n+2}$  は, (1) と同様に

$$q_{n+2} = \frac{1}{2}q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n \quad (n \geq 2) \quad \cdots (**)$$

このとき  $q_2 = 0, q_3 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{12}$

(\*\*) より  $q_{n+2} - q_{n+1} = -\frac{1}{2}(q_{n+1} - q_n),$

$$q_{n+2} + \frac{1}{2}q_{n+1} = q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n$$

第 1 式から  $q_{n+1} - q_n = (q_3 - q_2) \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2} = \frac{1}{12} \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2}$

第 2 式から  $q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n = q_3 + \frac{1}{2}q_2 = \frac{1}{12}$

上の 2 式から  $q_n = \frac{1}{18} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2} \right\} \quad (n \geq 2)$

**3** (1)  $f(x) = ax^p - \log x$  とおくと ( $x > 0$ )

$$f'(x) = apx^{p-1} - \frac{1}{x} = \frac{p}{x} \left( ax^p - \frac{1}{p} \right)$$

$$aq^p = \frac{1}{p} \cdots \textcircled{1}, \text{ すなわち, } q = \frac{1}{(ap)^{\frac{1}{p}}} \text{ とおくと, } f'(q) = 0 \text{ より}$$

$x$	(0)	...	$q$	...
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		↘	極小	↗

2 曲線  $y = ax^p$  ( $x > 0$ ) と  $y = \log x$  ( $x > 0$ ) の共有点が 1 点のみであるとき,  $f(q) = 0$  であるから

$$aq^p - \log q = 0 \quad \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ を解いて } \quad \mathbf{q = e^{\frac{1}{p}}, a = \frac{1}{pe}}$$

(2) 求める体積を  $V$  とすると

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_0^q (ax^p)^2 dx - \int_1^q (\log x)^2 dx \\ &= a^2 \left[ \frac{1}{2p+1} x^{2p+1} \right]_0^q - \left[ x \{ (\log x)^2 - 2 \log x + 2 \} \right]_1^q \\ &= \frac{(aq^p)^2 q}{2p+1} - q \{ (\log q)^2 - 2 \log q + 2 \} + 2 \\ &= \frac{q}{(2p+1)p^2} - q \left( \frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + 2 \right) + 2 \\ &= q \left( \frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + \frac{4}{2p+1} \right) - q \left( \frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + 2 \right) + 2 \\ &= \frac{q(2-4p)}{1+2p} + 2 = \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \end{aligned}$$

$$\text{よって } \quad \mathbf{V = \pi \left\{ \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \right\}}$$

(3) (2) の結果から,  $V = 2\pi$  のとき

$$\pi \left\{ \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \right\} = 2\pi \quad \text{よって } \quad \mathbf{p = \frac{1}{2}}$$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad p_{n+2} = \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \frac{p_{n+2}^2 + p_{n+1}^2 + 1}{p_{n+2}p_{n+1}} &= \frac{1}{p_{n+1}} \left( p_{n+2} + \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_{n+2}} \right) \\ &= \frac{1}{p_{n+1}} \left( \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} + p_n \right) = \frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n} \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad \frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n} = \frac{p_2^2 + p_1^2 + 1}{p_2p_1} = \frac{2^2 + 1^2 + 1}{2 \cdot 1} = \mathbf{3}$$

$$(2) \quad (1) \text{ の結果から, } p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1 = 3p_{n+1}p_n \text{ であるから}$$

$$p_{n+1}^2 + 1 = p_n(3p_{n+1} - p_n) \quad \text{ゆえに} \quad \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} = 3p_{n+1} - p_n$$

$$\text{したがって} \quad p_{n+2} = 3p_{n+1} - p_n \cdots \textcircled{1} \quad \text{すなわち} \quad p_{n+2} + p_n = 3p_{n+1}$$

$$\text{よって} \quad p_{n+1} + p_{n-1} = \mathbf{3p_n}$$

$$(3) \quad q_1 = 1, \quad q_2 = 1, \quad q_{n+2} = q_{n+1} + q_n \text{ であるから, } q_3 = q_2 + q_1 = 2$$

$$p_n = q_{2n-1} \quad (n = 1, 2, \dots) \quad \cdots (*)$$

$p_1 = q_1, \quad p_2 = q_3$  より,  $n = 1, 2$  のとき,  $(*)$  は成立する.

$(*)$  が  $n + 1$  以下の自然数について成立すると仮定すると,  $\textcircled{1}$  より

$$\begin{aligned} p_{n+2} &= 3q_{2n+1} - q_{2n-1} \\ &= 2q_{2n+1} + (q_{2n+1} - q_{2n-1}) = 2q_{2n+1} + q_{2n} \\ &= (q_{2n+1} + q_{2n}) + q_{2n+1} = q_{2n+2} + q_{2n+1} = q_{2n+3} \end{aligned}$$

したがって,  $n + 2$  のときも,  $(*)$  が成立する.

よって, すべての自然数について,  $(*)$  が成立する.

補足 漸化式より,  $p_3 = 5, \quad p_{n+2}p_n - p_{n+1}^2 = 1$  であるから  $(n = 1, 2, \dots)$

$$\begin{aligned} \frac{p_{n+2} + p_n}{p_{n+1}} - \frac{p_{n+1} + p_{n-1}}{p_n} &= \frac{p_n(p_{n+2} + p_n) - p_{n+1}(p_{n+1} + p_{n-1})}{p_{n+1}p_n} \\ &= \frac{(p_{n+2}p_n - p_{n+1}^2) - (p_{n+1}p_{n-1} - p_n^2)}{p_{n+1}p_n} = 0 \end{aligned}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{p_{n+2} + p_n}{p_{n+1}} = \frac{p_3 + p_1}{p_2} = \frac{5 + 1}{2} = 3$$

ここで,  $\alpha = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}, \quad \beta = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$  とおくと

$$p_{n+2} - (\alpha^2 + \beta^2)p_{n+1} + \alpha^2\beta^2p_n = 0, \quad q_{n+2} - (\alpha + \beta)q_{n+1} + \alpha\beta q_n = 0$$

$$\text{よって} \quad p_n = \frac{\alpha^{2n-1} - \beta^{2n-1}}{\alpha^2 - \beta^2} = \frac{\alpha^{2n-1} - \beta^{2n-1}}{\alpha - \beta}, \quad q_n = \frac{\alpha^n - \beta^n}{\alpha - \beta}$$

5 正の整数  $k$  に対し,  $k = l_k \cdot 2^{n_k}$  ( $l_k$  は奇数,  $n_k$  は 0 以上の整数) とすると

$${}_{2015}C_m = \prod_{k=1}^m \frac{2016 - k}{k} = \prod_{k=1}^m \frac{63 \cdot 2^5 - l_k \cdot 2^{n_k}}{l_k \cdot 2^{n_k}} = \prod_{k=1}^m \frac{63 \cdot 2^{5-n_k} - l_k}{l_k}$$

$1 \leq k < 2^5$  のとき,  $0 \leq n_k < 5$  であるから,  $63 \cdot 2^{5-n_k} - l_k$  は奇数.

したがって,  $1 \leq m < 32$  のとき,  ${}_{2015}C_m$  は奇数. 次に

$${}_{2015}C_{32} = \frac{63 \cdot 2^5 - 2^5}{2^5} \times {}_{2015}C_{31} = 2 \cdot 31 \times {}_{2015}C_{31}$$

は, 偶数である. よって, 求める最小の正の整数  $m$  は **32**

東京大学 1999 年前期 理科

(1)  $k$  を自然数とする.  $m$  を  $m = 2^k$  とおくと,  $0 < n < m$  を満たすすべての整数  $n$  について, 二項係数  ${}_m C_n$  は偶数であることを示せ.

(2) 以下の条件を満たす自然数  $m$  をすべて求めよ.

条件:  $0 \leq n \leq m$  を満たすすべての整数  $n$  について二項係数  ${}_m C_n$  は奇数である.

解答 (1) 
$${}_m C_n = \frac{m \times {}_{m-1} C_{n-1}}{n} = \frac{2^k \times {}_{m-1} C_{n-1}}{n}$$

$m = 2^k$ ,  $0 < n < m$  であるから,  $n$  が  $2^{k-1}$  を因数にもつことがあっても  $2^k$  を因数にもつことはないので, 二項係数  ${}_m C_n$  は偶数である.

(2)  ${}_{m-1} C_0 = 1$  および (1) の結果を  ${}_{m-1} C_j = {}_m C_j - {}_{m-1} C_{j-1}$  に適用すると,  ${}_{m-1} C_j$  ( $0 \leq j \leq m-1$ ) は奇数.

${}_{2^{k+1}} C_j = {}_{2^k} C_{j-1} + {}_{2^k} C_j$  であるから, (1) の結果により

$$j = 2, 3, \dots, 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+1}} C_j \text{ は偶数}$$

${}_{2^{k+2}} C_j = {}_{2^{k+1}} C_{j-1} + {}_{2^{k+1}} C_j$  であるから, 上の結果により

$$j = 3, 4, \dots, 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+2}} C_j \text{ は偶数}$$

順次繰り返すことにより,  $i = 0, 1, \dots, 2^k - 2$  に対して

$$i + 1 \leq j \leq 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+i}} C_j \text{ は偶数}$$

よって  $m = 2^k - 1$  ( $k$  は自然数)

別解 整数を係数とする多項式を，偶数の係数を0に置き換え，奇数の係数を1に置き換える．2つの整式がこの置き換えによって，等しくなるとき，この2つの整式は合同 ( $\equiv$ ) とする．例えば， $k$  を正の整数とすると

$$(1+x)^{2^k} \equiv 1+x^{2^k},$$

$$(1+x)^{2^k-1} \equiv 1+x+x^2+\cdots+x^{2^k-1}$$

2015 = 1024 + 512 + 256 + 128 + 64 + 16 + 8 + 4 + 2 + 1 であるから

$$(1+x)^{2015} = (1+x)^{1024}(1+x)^{512}(1+x)^{256}(1+x)^{128}(1+x)^{64}$$

$$\times (1+x)^{16}(1+x)^8(1+x)^4(1+x)^2(1+x)$$

$$\sum_{m=0}^{2015} {}_{2015}C_m x^m \equiv (1+x^{1024})(1+x^{512})(1+x^{256})(1+x^{128})(1+x^{64})$$

$$\times (1+x^{16})(1+x^8)(1+x^4)(1+x^2)(1+x)$$

右辺の係数が0になる最も次数の低い項は  $x^{32}$  よって 32

$$\boxed{6} \quad (1) \quad g(x) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi x) + 1}{2} & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{これより } g(nx) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi nx) + 1}{2} & (|x| \leq \frac{1}{n} \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > \frac{1}{n} \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{したがって } n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx = n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx)f(x) dx \quad \cdots (*)$$

$|x| \leq \frac{1}{n}$  のとき， $p \leq f(x) \leq q$ ， $g(nx) \geq 0$  に注意して

$$np \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx \leq n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx)f(x) dx \leq nq \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx$$

$$\text{ここで } n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx = \int_{-1}^1 g(t) dt = \left[ \frac{1}{2\pi} \sin(\pi t) + \frac{t}{2} \right]_{-1}^1 = 1$$

$$\text{上の諸式により } p \leq n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx \leq q$$



$$(2) \quad h(x) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi x) & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{これより } h(nx) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi nx) & (|x| \leq \frac{1}{n} \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > \frac{1}{n} \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{したがって } n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx = n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx$$

$g'(x) = h(x)$  であるから

$$\begin{aligned} & n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g'(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx = n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} \{g(nx)\}' \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= n \left[ g(nx) \log(1 + e^{x+1}) \right]_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} - n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) \cdot \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} dx \\ &= -n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) \cdot \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} dx \end{aligned}$$

ここで,  $f(x) = \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} = 1 - \frac{1}{1 + e^{x+1}}$  ( $-\frac{1}{n} \leq x \leq \frac{1}{n}$ ) とおくと,  $f(x)$  は単調増加であるから

$$f\left(-\frac{1}{n}\right) \leq f(x) \leq f\left(\frac{1}{n}\right) \quad \text{すなわち} \quad \frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} \leq f(x) \leq \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}}$$

(\*) および (1) の結果にこれを適用すると

$$\frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} \leq n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx \leq \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}} = e$  から, はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx = \frac{e}{1 + e}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad & \lim_{n \rightarrow \infty} n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ -n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx \right\} = -\frac{e}{1 + e} \end{aligned}$$